

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

ポリオウイルスの病原体バイオリスク管理の標準化等を推進するための研究

研究分担者 飯田哲也 大阪大学 教授

研究要旨

近年、腸内微生物叢の健康や疾患への関与についての興味の高まりにより、企業を含むさまざまな施設においてヒト糞便検体の収集・保存が進んでいる。本研究ではヒト糞便検体のバイオリスク評価手法について検討し、バイオリスク管理の方法について提言することを目的とした。本年度はバイオリスク管理の対象となるものとしてどのような糞便検体が存在するか、研究分担者の施設を対象として検討を行った。その結果、病原体検出および腸内微生物叢解析を目的として、ヒト糞便検体が計約 1,000 検体凍結保存されていた。今後、これらの糞便検体を用いてバイオリスク評価方法について検討していく。

A. 研究目的

腸管病原体の検索や腸内微生物叢の解析等を目的として、現在、さまざまな施設において数多くのヒト糞便検体が収集・保管されている。これらはポリオウイルスのバイオリスク管理の対象となる。本研究ではこれらヒト糞便検体のバイオリスク評価手法について検討し、バイオリスク管理の方法について提言することを目的とする。

B. 研究方法

本年度は、バイオリスク管理の対象となるものとしてどのような糞便検体が存在するか、研究分担者の施設を対象として検討を行った。

（倫理面への配慮）

当該研究期間においては、倫理面への配慮を必要とする研究はなかった。

C. 研究結果

当該施設においては、病原体検出を目的として、ヒト糞便検体が約500検体、また腸内微生物叢解析を目的として、約500検体が保存されていた。いずれもディープフリーザー内に凍結保存されていた。

（倫理面への配慮）

当該研究期間においては、倫理面への配慮を必要とする研究はなかった。

E. 結論

近年、腸内微生物叢の健康や疾患への関与についての興味の高まりにより、病院や公的研究機関、臨床検査施設等の専門的な微生物検査施設のみならず、企業を含むさまざまな施設においてヒト糞便検体が収集・保存されつつある。これらの糞便検体に対するバイオリスク管理の標準化が必要であり、今後、当該施設の検体を用いてバイオリスク評価方法について検討行っていく。最終的に本事業の研究期間内に提言をまとめることを目指す。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

* 【健康危険情報】

なし